
ドラえもん のび太の5D's

のびやん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドラえもん のび太の5D - s

【Zコード】

Z45500

【作者名】

のびやん

【あらすじ】

ある日、ひょんな事から「スターダスト・ドラゴン」のカードを手に入れたのび太。しかし、それは紅き龍に選ばれし者達の戦いの始まりでもあった・・・

原作ともアニメとも別の世界ですが、一応GXの数年後の時代設定です。

プロローグ 星屑に選ばれし者

「デュエルモンスターズ……またの名を、マジックアンドウェイザーズ

それは、古代エジプトの壁画にインスピレーションを得た天才ゲームデザイナー「ペガサス・」・クロフォードによって創られしカードゲームである。

そして、デュエルモンスターズを用いて戦う者達は「デュエリスト」と呼ばれた……

この物語は紅き龍に選ばれし者達のもう一つの物語である……

のび太「やばい、昼寝し過ぎた！ 早く帰らないと怒られちゃうー。」
この丸眼鏡の少年「野比 のび太」は、学校の帰りによく学校の裏にある小さな山で昼寝をしている。いつもは一~三十分ほど寝て帰るのだが、今日はすこし寝過ぎてしまったのだ

太陽は地平線へ沈んでいき、町の街灯はポツポツと点灯し始める。

のび太「ハア、ハア、暗くなってきた……あつー」
息を切らせながら走っていたのび太は、十字路で死角から走つくる少女にぶつかった。

お互に尻もちをつき、少女は立ち上がった。

少女「『めんなさい』、怪我してない？」

のび太「大丈夫ですけど・・・あなたは？」

少女「ええ、ちょっとすりむいた程度よ・・・あつ、私の『テッキ』が！」

のび太の周りには少女の『テッキ』が散乱していた。

少女「拾わなきや！」

のび太「僕も手伝います！」

のび太と少女は散らばったカードを拾い始めた

のび太「僕も『デュエルモンスターズ』はやつてるんですけど、なかなか勝てないんですね」

のび太の『テッキ』は、好きなカードをかき集めて作った俗に言う「紙束」であった。

少女「勝てなくともいいじゃない。自分の好きなカードで楽しく『デュエル』する、それで充分だと私は思うな。そうすればおのずと結果がついてくるよ」

のび太（楽しく、『デュエル』・・・か・・・そつか、きつと僕は勝ちに執着し過ぎてたんだな）

そんなことを考えてるうちに、のび太と少女はカードを全て拾い終えた。
少女「38、39、40 うん、全部そりつてるわ。風に飛ばされなくてよかつたあ～」

のび太「よかつたですね、あつ急いでるんだつた！」

のび太はその場を後にしようとすると、少女はのび太を呼びとめた。

少女「君、お礼にこのカードあげる。君の所へ行きたがってるみた

い」

少女は懐から「スター・ダスト・ドラゴン」のカードを取り出した。

のび太「えつ、こんなレアカード貰つていいんですか！？」

少女「この子が行きたがってるみたいだし、全然OKよ

少女は半ば強引にのび太にスター・ダスト・ドラゴンを手渡した。

少女「そういえば、名前聞いてなかつたね。私は雅みやび。君は？」

のび太「僕はのび太つて言います。」

雅「そう、のび太君つていうのね。また合つかは分からぬいけどその時はよろしく！」

のび太「ええ、また会いましょう！」

雅とのび太はそう言って別れを告げた。

・のび太宅 -

のび太母「のび太、何時だと思ってるの！心配したじゃない！ 晩

御飯出来るから手洗つて早く来なさいよ

のび太の予想とは裏腹に、対して怒られなかつた。その後、夕食を食べたのび太は自分の部屋に戻り、貰つたカードを取り出した

のび太「ドラえもん、今日こんなカード貰つたんだけど・・・」

ドラえもん「なになに?」

押入れから、青いタヌキのよつなものが出てきた。ドラえもんだ
ドラえもん「スターダスト・ドラゴン? 初めて見るカードだなあ。
でも、かなりのレアカードだね。よかつたじやないか」

ドラえもんはカードのステータスを見た後、スターダスト・ドラゴンをのび太に返した

このスターダスト・ドラゴンのレアリティは「~~post~~」と呼ばれるレアリティに相当する。

しかし、この時2人は知らないが「~~post~~」はまだ出回っていない
ないレアリティなのである。

のび太「折角だからこのカードを使えるデッキを組んでみよう。」

のび太はそう言って押入れからカードの入った段ボールを取り出した

た

ドラえもん「もう、ちゃんと宿題やらなきゃダメだよ」

ドラえもんはそう言いながらカード探しを手伝いだした

のび太「よし、今日は休みだしカード屋にデュエルでもしに行こう

次の日

かな」

のび太はそう呟いて家を後にした

カードショップ 鶴のゲーム屋

店長「いらっしゃい」

某落語家風に出てきた六十過ぎの老人、彼の名前は「武藤 賽子」（むとう さいこ） キングオブデュエリスト武藤遊戯の祖父武藤双六の弟である。

最近のび太の町に移転した小さなお店で、童実野町にある兄双六の店「亀のゲーム屋」の姉妹店なのだが取り扱っている商品のはほとんどがデュエルモンスターZ関連の商品である。
兄の店は玄人好みのボードゲームなども取り扱っている。
のび太「賽子さん、デュエルスペースに入いる？」

賽子「おお、ちょうど1人待ってるぞい 確か・・・骨皮スネ夫君とか言つたかな？」

のび太「スネ夫がいるのか。よおし、新しいデッキで勝負だ」

賽子「それじゃ、地下へ行くかの」

この店、店舗自体は駄菓子屋を改装しただけだが、地下にはなんと体育館ほどのデュエルフィールドが広がつていて。なんでも、若い頃に兄と一緒にラスベガスのカジノで一発当てた時に手に入れたお金で造つたらしい。

賽子「ほれ、デュエルディスクじゃ。大事に使うんじゃぞ」

賽子はのび太にデュエルディスクを手渡した。

のび太「なんだか他に人がいないとすぐ壮大なデュエルみたいになるなあ」

そんなことを言つてはいると奥からスネ夫がやってきた

スネ夫「なんだ、のび太か。暇つぶし程度だけ相手させてもらうよ ま、お前の紙束じゃ僕ちんのデッキには一生勝てないだろうけどね」

スネ夫はのび太よりもずっと強い。というよりのび太が弱すぎるだけなのだが

のび太「僕のカード達を馬鹿にしたな！ 今日はこそはコテンパンにしてやる！」

賽子「それでは、デュエルを始める！」

今回は賽子が審判を務める

のび太&・スネ夫「デュエル！！」

両者の声が地下空間に響いた . . .

続く

プロローグ 星屑に選ばれし者（後書き）

定期的に加筆修正を行つております。おかしい点があれば指摘してください。

ターン1 青眼を継ぐもの

ターン1 青眼を継ぐもの

のび太&・スネ夫「デュエル！」

スネ夫「先行はくれてやる！」

スネ夫は勝利を確信していた。なぜなら、今手札には彼のデッキのキーカード達がそろっているからだ。後攻を取ったのも1ターンキルの可能性に賭けるためである。

のび太「じゃあ、僕のターンドロー！ 僕はマックス・ウォリアーを攻撃表示で召喚！」

星4／風属性／戦士族／ATK1800／DEF800

このカードは相手モンスターに攻撃する場合、

ダメージステップの間攻撃力が400ポイントアップする。

このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊した場合、

次の自分のスタンバイフェイズ時までこのカードのレベルは2にな

り、

元々の攻撃力・守備力は半分になる。

のび太のフィールドにフォークの様な槍を持つ戦士が現れる

のび太「さらに、リバースカードを2枚伏せてターン終了」のび太
ハンド3枚

スネ夫「無駄無駄あ！僕のターン、ドロー！僕は正義の味方カイバ
ーマンを攻撃表示で召喚！」

星3／光属性／戦士族／AKT2000／DEF700

このカードをリリースする事で、手札から「青眼の白龍」1体を特
殊召喚する。

のび太「カイバーマン！？スネ夫、まさか！」

スネ夫「そのまさかだ！カイバーマンをリリースし、来い！ 青眼
の白龍！（フルーアイズホワイトドラゴン）」

星8／光属性／ドラゴン族／ATK30000／DEF2500

スネ夫は聖龍族最強クラスのモンスター「青眼の白龍」を1ターンで呼
び出した

青眼の白龍はかつて強力すぎてゲームバランスの崩壊を危惧されて
生産中止になり、その後に残った3枚を海馬コーポレーション社長
「海馬瀬人」が所有している事で有名だが、
長きにわたる環境変化により、再び生産されるようになった。

しかし、それでもレアカードであることに変わりはなく1枚数十万ほどするカードである。（もちろん、瀬人の持っている初期版の価値は現在でも変わらない）

スネ夫「お前のマックス・ウォリアーなんて、僕のブルーアイズの前にはクズ同然！さあ、行けブルーアイズ！滅びのバーストストリーム！」

ブルーアイズの口から稲妻をまとつた破壊光線がマックス・ウォリアーに襲いかかる

のび太「そうはさせない！リバースカードオープン！くず鉄のかかし！」

農カード

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

相手モンスター1体の攻撃を無効にする。

発動後このカードは墓地に送らず、そのままセットする。

ブルーアイズの攻撃を粗大ゴミで出来たかかしが食い止める

スネ夫「くつ、のび太のくせに生意気なつ 僕はカードを一枚伏せターン終了」スネ夫ハンド3枚

のび太「僕のターン、ドロー！」

のび太は焦っていた。のび太のデッキには元々の攻撃力が3000を超えるモンスターは存在しない。コンボを用いれば撃破は不可能ではないのだが、

今の手札ではブルーアイズを攻略することはできない

のび太「僕はマックスウォリアーを守備に変更、さらにボルトヘッジホックを守備で召喚しターンエンド！」のび太ハンド3枚

スネ夫「僕のターン、ドロー！ 僕は手札から魔法カード ブルーアイズドッペルゲンガーを発動！」

青眼の生き写し（ブルーアイズドッペルゲンガー） オリジナルカード

このカードを使用するターン、自分はカードを場に出すことはできない
自分モンスターが「青眼の白龍」1体のみ存在する時、自分の場のセットカードをすべて墓地に送り、LPを半分払つて発動することができる。

相手フィールドのモンスター1体をリリースし、デッキから青眼の白龍を特殊召喚する。このカードを使用したターンのバトルフェイズ、

相手は魔法罠カードを発動できない。このカードを使用したターンのエンドフェイズ時、自分フィールド上に存在する青眼の白龍一体をゲームから除外する

スネ夫 LP 4000 2000

のび太「何！ そんなカード見たことないぞ！

スネ夫「パパの友達にカードデザイナーがいてね。特別に試作品のカードを譲つてもらつたんだよ」

スネ夫の自慢話が始まりそうだ . . .

スネ夫「つと、無駄話はこれくらいにして。のび太のボルトヘッ

ジホックをリリースしてデッキからもう1体の青眼の白龍を特殊召喚する！」

スネ夫の場にもう1体のブルーアイズが現れる

スネ夫「行くぞ、青眼の白龍の攻撃 滅びのバーストストリーム！」

青眼の生き写しの効果でくず鉄のかかしは使えない

のび太「くっ、マックス・ウォリアーがつ！」

スネ夫「さらに、青眼の白龍の攻撃 滅びのバーストストリーム！」

破壊光線がのび太を包む

のび太「ぐああああああああ！」

のび太 LP 4 000 1 000

スネ夫「このターン僕はもう何もできない 青眼の白龍を1体除外してターンエンドだ」スネ夫手札3枚

のび太「ここで負けるわけにはいかない！僕のターン、ドロー！」

のび太は逆転の1枚を引き当てた

のび太「僕は手札から調律を発動！」

自分のデッキから「シンクロロン」と名のついたチューナー1体を手札に加えてデッキをシャッフルする。

その後、自分のデッキの上からカードを1枚墓地へ送る。

のび太「僕はデッキからジャンクシンクロンを手札に加える！そしてデッキの上からカードを1枚墓地へ送る！」

墓地へ送られたカードはスピード・ウォリアーだった

のび太「僕はジャンクシンクロを攻撃表示で召喚！」

星3／闇属性／戦士族／ATK1300／DEF500（チューナー）

このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在するレベル2以下のモンスター1体を表側守備表示で特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚した効果モンスターの効果は無効化される。

のび太「僕はジャンク・シンクロンの効果でスピードウォリアーを守備表示で特殊召喚！」

星2／風属性／戦士族／ATK900／DEF400

このカードの召喚に成功したターンのバトルフェイズ時にのみ発動する事ができる。

このカードの元々の攻撃力はバトルフェイズ終了時まで倍になる。

のび太「さらに、自分フィールド上にチューナーが存在する為、墓地からボルトヘッジホッグを攻撃表示で特殊召喚！」

星2／地属性／機械族／ATK800／DEF800

自分フィールド上にチューナーが表側表示で存在する場合、

このカードを墓地から特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚したこのカードはフィールド上から離れた場合、ゲームから除外される。

のび太の場に1ターンで3体のモンスターが揃つた

スネ夫「チューナー1体に低級モンスター・・・まさかっ！シンクロ召喚！」

のび太「そうさ、スネ夫！いくぞ！レベル2ボルトヘッジホッグにレベル3ジャングク・シンクロンをチューニング！」

スネ夫「シッシンクロしたつて僕の3000のブルーアイズは超えられないぞ！」

のび太「それはどうかな！！集いし絆が鋼鉄の拳を創りだす 光射す道となれ！ シンクロ召喚！ 叩きこめ！ジャングク・ウォリアー！」

星5／闇属性／戦士族／ATK2300／DEF守1300（シンクロ）

「ジャングク・シンクロン」 + チューナー以外のモンスター1体以上このカードがシンクロ召喚に成功した時、このカードの攻撃力は自分フィールド上に表側表示で存在する

レベル2以下のモンスターの攻撃力の合計分アップする。

のび太「ジャングク・ウォリアーの効果によつて、フィールド上に存在するスピードウォリアーの攻撃力900ポイント分攻撃力上昇！ よつて攻撃力は3200！！」

スネ夫「さつ 3200だつて！」

のび太「まだ終わらない！リバースカードオープニング・シンクロ・ストライク！」

通常戦

シンクロ召喚したモンスター1体の攻撃力はエンドフェイズ時まで、シンクロ素材にしたモンスターの数×500ポイントアップする。

のび太「更に攻撃力は1000ポイントアップ！」

スネ夫「よつよんせんにひやく・・・ひい・・・」

のび太「そして、手札から装備カードジャンク・アタックをジャンク・ウォリアーに装備！！」

装備魔法

装備モンスターが戦闘によつてモンスターを破壊し墓地へ送つた時、破壊したモンスターの攻撃力の半分のダメージを相手ライフに与える。

のび太「バトル！ジャンク・ウォリアーで青眼の白龍に攻撃！ 破け、スクラップガントレット！」

スネ夫「僕ちんのブルーアイズがあああ！・！・！・！・！」

スネ夫の断末魔が響く

スネ夫 L P 2 0 0 0 8 0 0

のび太「さらに、ジャンク・アタックの効果で青眼の白龍の攻撃力の半分のダメージを受けてもらう！」

スネ夫は倒されたブルーアイズの下敷きになる

スネ夫「ママアツツツツ！…！」

スネ夫 L P 8 0 0 0

賽子「勝者、野比のび太！」

スネ夫「くそつ、のび太め！覚えてろよつ！」

スネ夫は逃げ去るようにデュエル場を後にした

のび太「やつた…スネ夫に勝つたぞ！でも、スターダスト・ドラゴンは召喚できなかつたな。…つてなんか人がたくさん（「ヨウわあああ」）

のび太はいつの間にか集まっていたギャラリーに囲まれていた

賽子「デュエルに見入つていたせいで空気になつてしまつたのう。しかし、のび太君を見ていると兄ちゃんの孫の遊戯君を見てるようじゃつた…スネ夫君も素晴らしい勝負を見せてくれたのう…さて、レジに戻るかの」

賽子はそう呟いてレジの方へ戻つていった

続く

今日の最強カードはジャンク・ウォリアー！

コンボ次第では破格の攻撃力が得られるのが太の強い相棒だぞ！

星5／闇属性／戦士族／ATK2300／DEF守1300（シン
クロ）

「ジャンク・シンクロン」 + チューナー以外のモンスター1体以上
このカードがシンクロ召喚に成功した時、このカードの攻撃力は
自分フィールド上に表側表示で存在する

レベル2以下のモンスターの攻撃力の合計分アップする。

ターン1 青眼を継ぐもの（後書き）

ライフ計算とか、手札枚数がおかしくなったりしないように頑張ります

ターン2 邪龍ＶＳ屑鉄 前篇

ターン2 邪龍ＶＳ屑鉄 前篇

鶴のゲーム屋 地下デュエル場

ギャラリーA 「すげえ、あの貧弱のび太がスネ夫を倒したぞ！」

ギャラリーB 「いやいや、マグレだろ。スネ夫は全国大会に出場するくらいの実力の持ち主だぜ、そんな奴がのび太なんかに負けるかよ」

ギャラリーはスネ夫が青眼の生き写しを使つた辺りからぞろぞろと集まつていたようで、多くの者がのび太がスネ夫を倒したことに驚いている

のび太「よし、もう一戦するか！ 僕とやりた人いる？」

そんなことを言つてるとギャラリーから見覚えのある少女が現れた。雅だ

のび太「雅さん！ 昨日はどうも…」

のび太は雅に軽くおじぎをした。

雅「まさかのび太君もこのお店に来るのはねえ。のび太君が倒し

た相手、聞くにはこの辺りで5本の指に入る『デュエリストらしい』
やない」

のび太「えへへ、何だか照れるなあ」

のび太は顔を赤くして笑った。

雅「そうだ、折角だから『デュエルしない?』デュエルは『デュエリストの挨拶みたいなものだし』

そう言いつと雅はウエストポーチから『テッキを取りだし、カット&シャツフルした後自分の『デュエルディスクにセットした

のび太「やる気満々ですなあ。よおし、それじゃあ僕も『テッキをカット&シャツフル!』

のび太も自分の『デュエルディスクに『テッキをセットした

雅&のび太「デュエル!」

再びギャラリーがのび太達の方へやつてくる

ギャラリーA「急に『デュエルが始まつたぞ。』

ギャラリーB「てか、のび太の相手どこかで見たことがあるよつな。
それにあの『デュエルディスクも珍しい形してるなあ。まあ、いつか

のび太「先行後攻は『デュエルを挑んだ方に決める権利がある。雅さん、好きな方を選んでください!』

雅「じゃあ先行を貰うわ。私のターン！ ドロー！」

雅はデッキからカードを引いた。しかし、そのデッキを置くデュエルディスクはのび太達が使用している「バトルシティモデル」ではない。

公式戦で100連勝した者にのみ送られるデュエルディスク「ブラックサイクロンモデル」であった。しかし、それがそんな貴重なものだと気づく者はまだいない

雅「私はレプティレス・ナージャを攻撃表示で召喚！ ターン終了よ」 雅 ハンド5枚

星1／闇属性／爬虫類族／ATK 0／守DEF 0

雅のフィールドに蛇の胴体に人の体がめり込んだ様な謎のモンスターが現れる

のび太「攻守0ならフィールドはがら空きも同然！僕のターン、ドロー！ 僕はスピード・ウォリアーを攻撃表示で召喚、このターンこのカードの攻撃力は倍の1800！！」

星2／風属性／戦士族／攻 900／守 400

このカードの召喚に成功したターンのバトルフェイズ時にのみ発動する事ができる。

このカードの元々の攻撃力はバトルフェイズ終了時まで倍になる。

のび太の場に強化スーツに身を包んだ銀色の戦士が現れる

のび太「行け、スピード・ウォリアーの攻撃！ ソニック・ブレイド

！」

スピード・ウォリアーの蹴りから生み出された風の刃がレプティレス・ナージャに襲いかかる

雅「うつ！」

雅 LP4000 LP2200

雅「でも、ナージャは戦闘では破壊されないわ！さらに、このカードと戦闘を行つたモンスターの攻撃力は0になる！」

このカードは戦闘では破壊されない。

このカードと戦闘を行つたモンスターはバトルフェイズ終了時に攻撃力が0になる。

自分のエンドフェイズ時、

フィールド上に表側守備表示で存在するこのカードを表側攻撃表示にする。

のび太のスピード・ウォリアーはレプティレス・ナージャに睨まれて、石像と化した

のび太「くそつ、僕はリバースカードを2枚伏せ、ターンエンド！」
のび太手札3枚

ギャラリーA「あつ！思い出した！あの人は、弱冠10歳にして北米プロリーグの最高峰『カイザーリーグ』で優勝した最年少チャンピオン、矢又 雅（やまた みやび）通称『東洋のメドューサ』じゃないか！」

雅「あれ、私つて日本でもそれなりに有名だったのね・・・」

のび太「えつ！ 北米チャンプ！ ホントですか！ 雅さん！？」

のび太は驚きを隠せない

雅「ん、まあ4、5年前の話だけねえ・・・今はこっちに帰ってきて普通の生活を送ってるわ」

のび太（普通の生活つて・・・てか、北米つてどこだろ？北海道のお米の産地かな？）

流石のび太、馬鹿である

雅「まあ、その話はまたあとで話してあげるわ！私のターン、ドロー！私はレプティレス・スキュラを攻撃表示で召喚！」

星4／闇属性／爬虫類族／AKT1800／DEF1200

このカードが戦闘によって攻撃力0のモンスターを破壊した場合、そのモンスターを墓地から自分フィールド上に表側守備表示で特殊召喚することができる。

この効果で特殊召喚したモンスターの効果は無効化される。

雅「この子が戦闘で攻撃力0のモンスターを破壊すると、そのモンスターを私のフィールドに守備表示で特殊召喚する事ができるわ。まあ、効果は無くなっちゃうけどね」

のび太（まさか、このカードでモンスターを奪うためにわざとおりとして攻守0のモンスターを出したのか！これがお米キングの実力なのか！？）

お米でもなければキングでもない。北米クイーンである

雅「さあ、スキュラで石像と化したスピード・ウォリアーに攻撃！スタチュークラッシュ！」

スキューラの突進でスピード・ウォリアーは砕け散った

のび太「くつ、これでＬＰは互角．．．」

のび太ＬＰ4000 2200

雅「さらに、私の場にスピード・ウォリアーを守備表示で特殊召喚！」

碎けつ散つた石像が再構成され、雅のフィールドに現れる

雅「私は手札から成り金ゴブリンを発動して、1枚ドロー。リバースカードを1枚伏せてターンエンド」雅 手札3枚

のび太ＬＰ2200 3200

成り金ゴブリンは相手のＬＰを1000回復する代わりにテッキから1枚ドローするカード。雅は確実に手札交換を行った

のび太「回復させてくれるなんてありがたいね。僕のターン、ドローリー！ 僕は手札から魔法カード精神操作を発動！ スピード・ウォリアーは返してもらうよ！」

このターンのエンドフェイズ時まで、

相手フィールド上に存在するモンスター1体のコントロールを得る。このモンスターは攻撃宣言をする事ができず、リリースする事もできない。

スピード・ウォリアーの上に操り人形の糸の様な物が現れ、スピー

ド・ウォリアーを操りだした。

のび太「更に僕は手札からジャンク・シンクロンを攻撃表示で召喚！ レベル2スピード・ウォリアーに、3ジャンク・シンクロンをチューニング！」

ジャンク・シンクロンは自らの胴体にあるエンジンスターを引つ張ると、光の星と円に分離してスピード・ウォリアーを包みだした

ギャラリーB「来るか！ ジャンク・ウォリアー！」

のび太「集いし絆が鋼鉄の拳を創りだす 光射す道となれ！ シンクロ召喚！ 叩きこめ、ジャンク・ウォリアー！」

のび太の場に鋼鉄の戦士ジャンク・ウォリアーが現れる。しかし、自分の場にレベル2以下のモンスターがないため攻撃力は2300のままである

のび太「そして僕は手札から魔法発動！ 精神同調波！ この効果によつて、レプティレス・ナージャを破壊する！」

通常魔法

自分フィールド上にシンクロモンスターが表側表示で存在する場合のみ

発動する事ができる。相手フィールド上に存在するモンスター1体を破壊する。

ジャンクウォリアーの体から強烈な光が放たれ、雅のレプティレス・ナージャは跡形もなく消滅した。

雅「ナーダー、ありがとう。あなたの分も私が頑張る!」

のび太（雅さん、カードをすゞく大事にしてるみたいだな）

のび太は一瞬そんな事を考えた後、バトルフェイズに突入した

のび太「バトル、ジャンク・ウォリアーでレプティレス・スキュラに攻撃！ 碎け、スクラップガントレット！」

雅「デッキからレプティレス・スキュラを墓地に送り、トラップ発動、スネーク・バリア！を発動！ このカードのおかげで私はモンスターがいる限り戦闘ダメージを受けないわ！」

罠カード

デッキの爬虫類族モンスター1体を墓地に送り発動する
このターンのコントローラーへの戦闘ダメージは0になる。

のび太「でも、スキュラは破壊される！」

レプティレス・スキュラはジャンク・ウォリアーの一撃を受けて悲鳴を上げながら消滅した

のび太「僕はリバースカードを1枚伏せターンエンド！」 のび太手札1枚

雅「私のターン、ドロー！ 私は手札からスネーク・レイン発動！」

通常魔法

手札を1枚捨てる。

自分のデッキから爬虫類族モンスター4体を選択し墓地に送る。

雅「私はコストとしてレプティレス・ガードナーを墓地に送り、デッキからナーガ、ヴェノム・コブラ、レプティレス・ヴァースキ、レプティレス・バイパーを墓地へ送る！」

デッキから4枚もの蛇モンスターが墓地へ送られた、これは一見無意味な効果に見えるが・・・

のび太（カードを大事にしてる雅さんが自ら大量のモンスターを墓地へ送るなんて・・・これが彼女なりの『愛』なのか？）

変な妄想を膨らませるのび太は置いておいて、デュエルを続けよう

雅「そして、私は墓地に存在する爬虫類族モンスター7体をすべて除外！ 来て、マイフェイバリットカード『邪龍アナンタ』！！」

星8／闇属性／爬虫類族／AKT？／守DEF？

このカードは通常召喚できない。

自分のフィールド上及び墓地に存在する爬虫類族モンスターを全てゲームから除外する事でのみ特殊召喚する事ができる。

このカードの攻撃力・守備力は、特殊召喚時にゲームから除外した爬虫類族モンスターの数×600ポイントになる。

このカードが自分フィールド上に存在する限り、

自分ターンのエンドフェイズ時にフィールド上のカード1枚を破壊する。

フィールドに巨大な邪龍が現れる

雅「アナンタの攻撃力と守備力は墓地から取り除いた爬虫類族×600ポイントとなる！よつて攻撃力、守備力 7×600 では4200！！

アナンタの体から、取り除かれたモンスターの数だけ新たな首が七つ現れハツ首のモンスターとなつた

雅「バトル！アナンタでジャンク・ウォリアーに攻撃！ プレデーター オブスネークス ハ連打ああ！！」

のび太「リバースカーデオープン！くず鉄のかかし この戦闘を無効にする！」

くず鉄のかかしがアタンタの攻撃を受け止める

雅「私はこのままターンエンド。でも、アナンタのモンスター効果発動！ フィールド上のモンスター1体を抹殺する！」

アナンタの胴体にある目に睨まれ、ジャンク・ウォリアーは石像化しアナンタの尻尾に貫かれた。

雅 手札1枚

のび太「くつ、マズいな。僕のターン、ドロー！」

のび太はこのターンで逆転できるのか・・・それとも、邪龍の餌食になつてしまふのか・・・後篇に続く

今日の最強カードは邪龍アナンタ スネークレインとのコンボで破格の攻撃力を得られるぞ！

さらに、自分のターンのエンドフェイズ時にモンスターを1体破壊する効果も持っている。

どうまでも相手を苦しめる、まさに邪龍の名にふさわしいカードだ！

効果モンスター

星8／闇属性／爬虫類族／ATK?／守DEF?

このカードは通常召喚できない。

自分のフィールド上及び墓地に存在する爬虫類族モンスターを

全てゲームから除外する事でのみ特殊召喚する事ができる。

このカードの攻撃力・守備力は、特殊召喚時にゲームから除外した爬虫類族モンスターの数×600ポイントになる。

このカードが自分フィールド上に存在する限り、

自分ターンのエンドフェイズ時にフィールド上のカード1枚を破壊する。

ターン2 邪龍VS肩鉄 前篇（後書き）

デュエルパートって、たくさん書いたつもりでも全然ターンが進んでないんですよね・・・LP4000だと尺伸ばしも難しいしなあ

ターン3 邪龍VS屑鉄 後篇

ターン3 邪龍VS屑鉄 後篇

のび太 LP3200 手札1 伏せ2枚 モンスター無し
雅 LP2200 手札1 伏せ1枚 邪龍アナンタ攻撃力4
200

ギャラリーA 「いくらスネ夫を倒したからって、のび太が元北米チヤンプに勝てるわけないよな」

ギャラリーの多くはのび太の負けを確信した。

のび太「僕は最後まであきらめない！僕のターン、ディステイニードロー！」

のび太は目をつぶり、デッキからカードを引いた。

のび太「（キタツ！）僕はリバースカード発動！ロスト・スター・ディセント 鮎れ、ジャンク・ウォリアー！」

通常罷

自分の墓地に存在するシンクロモンスター1体を選択し、自分フィールド上に表側守備表示で特殊召喚する。

この効果で特殊召喚したモンスターの効果は無効化され、レベルは1つ下がり守備力は0になる。

また、表示形式を変更する事はできない。

ギャラリーA 「守備力が0じゃ壁としても役に立たないよ。他のモ

ンスターを引かれたらお終いだ」

のび太「確かに、これだけではただの壁にすぎない。でも、この効果はレベルが一つ下がることに意味があるんだ！ 僕は手札からブライ・シンクロロンを攻撃表示で召喚！」

星4／地属性／機械族／ATK1500／DEF1100 チューナー

このカードがシンクロ召喚の素材として墓地へ送られた場合、このターンのエンドフェイズ時まで、このカードをシンクロ素材としたシンクロモンスターの攻撃力は600ポイントアップし、効果は無効化される。

のび太「レベル4ジャングク・ウォリアーに、レベル4ブライ・シンクロロンをチューニング！」

雅「レベル合計は8・・・まさか！」

ブライ・シンクロロンが光となつてジャングク・ウォリアーを包みこむのび太「集いし願いが奇跡へ繋がる軌跡を描く 光射す道となれ！ シンクロ召喚！ 羽ばたけ、スターダスト・ドラゴン！」

星8／風属性／ドラゴン族／AKT2500／DEF2000
チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上
「フィールド上のカードを破壊する効果」を持つ
魔法・罠・効果モンスターの効果が発動した時、
このカードをリリースする事でその発動を無効にし破壊する。

この効果を適用したターンのエンドフェイズ時、この効果を発動するためにリリースされ墓地に存在するこのカードを、自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

光の球の中から、細身の白みがかつた龍が現れる

ギヤラリー & 雅「召喚台詞、ダジャレかよ・・・」

誰もが凍りつくようなダジャレだつた。そして厨二だつた・・・(ちなみに奇跡の軌跡というカードは実在する)

のび太「ああ、もう昨日寝る前に一生懸命考えたのに! まあ、いや。ブライ・シンクロンの効果でスターダスト・ドラゴンの効果はこのターンの間無効化されるけど、エンドフェイズ時まで攻撃力は600ポイントアップする!」

スターダストの色が白から灰色に変わっていく スターダスト・ドラゴン 攻撃力 2500 3100

ギヤラリーA「てか、こんなモンスター見たことないなあ。カードカタログにも乗つてないし・・・」

ギヤラリーの一人はバックから取り出した電子カタログに目を通すがスターダストは載つていなかつた

雅「スターダストを出してきたわね、でもその攻撃力じゃ私のアナンタには届かないわ」

雅は勝利を確信していた。いくら好きなカードで好きなようにデュエルするとのび太に言つたとはいえ、勝つ事が嬉しくないわけではない。

のび太「2枚で届かないなら、3枚目を使うのみ！ 手札から速攻魔法発動！』イージー・チューニング！』

雅「このタイミングでイージー・チューニングですって！」

速攻魔法

自分の墓地に存在するチューナー1体をゲームから除外して発動する。

自分フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体の攻撃力は、発動時にゲームから除外したチューナーの攻撃力分アップする。

のび太「僕は墓地のブライ・シンクロンを除外、スターダスト・ドラゴンの攻撃力は1600ポイントアップ！」

スターダスト・ドラゴン攻撃力 3100 4700

雅「攻撃力4700！？ でも、私のライフは削りきれないわ！」

雅は最後まで闘志を燃やしている。その目はあどけない少女の目ではなく、北米チャンプ「矢又 雅」の誇りに満ちた目になっていた。

のび太「よし、バトルフェイズだ！スターダスト・ドラゴンで邪龍アナンタに攻撃！』ミラージュ・セイヴァーブレス！』

スター・ダストから七色のキラキラとしたブレスが放たれ、カマイタチの如くアナンタの首をひとつ残らず切り落とした。

雅 LP 2200 1700

のび太「僕はターンエンド。よし、これで雅さんのエースモンスターは倒した!」のび太 手札0

ブライ・シンクロンの効果は消滅し、スター・ダスト・ドラゴンの色が元に戻った。しかし、イージー・チューニングの効果は場を離れない限り消滅しない

スター・ダスト・ドラゴン 攻撃力 4100

今度はのび太は勝利を確信した。相手の手札は1枚、こちらには4100の破壊耐性モンスター そして戦闘を受け止めるくず鉄のかしこがある。

しかし、のび太は見落としていた。自分の手札がハンドレスである事と雅のリバースカードを・・・

雅「私のターン、私はドロー前にリバースカードオープン!『逆転の魔皇』」

のび太「『逆転の魔皇』だつて!?」

雅の場に天使と悪魔の羽をもつ魔皇が現れる

雅「『逆転の魔皇』は自分の手札が1枚で、なおかつ自分の場のカードがこれ1枚の時に自分のドローフェイズに発動できるカード・・・

手札を1枚墓地へ送り、そのターンのドローをスキップする代わりに私はエクストラデッキからシンクロモンスターを1体特殊召喚し、相手のモンスターの攻撃力の半分を奪う！！」

のび太「そんな！ それじゃあ僕のスターダストの攻撃力は2050！？」

雅「私はエクストラデッキから、モンスターを呼び出す！（力を貸して、お兄ちゃん・・・）来て、真の切り札レッド・デーモンズ・ドラン！！」

魔皇が卵のように変化し、その卵から伝説の紅き悪魔龍が生まれた！！

雅「レッド・デーモンズの攻撃力は3000、スターダストから奪つた攻撃力は2050 よつて攻撃力は5050！！」

のび太「5050！？でも、僕の場にはくず鉄のかかしがある！」

雅「『逆転の魔皇』のもう一つの効果発動！ このターン、あらゆる罠魔法カードの発動を無効にする！さらに、相手フィールド上の伏せカード1枚につき500ポイントのダメージを与える！」

のびた LP3200 2700

のび太「そんな、この攻撃が通つたら僕の負けだ！！」

雅「これがプロのタクティクス、エンターテイメントの境地！ バ

トル、スターダスト・ドラゴンに攻撃 爆炎波・焼殺大火・・・雅が攻撃を宣言しようとした時、異変が起きた。

なんとスターダストとレッドデータモンズが既に戦闘を始めていたのだ。

雅「そんな、私はまだ攻撃名を言いきってないわ！なのにどうして・・・」

攻撃名を宣言した場合、最後まで言い切らないと攻撃宣言を行えないのがデュエルディスクを使用した時のルールだ。しかし、雅は攻撃名を最後まで言いきってはいない

のび太「わっ、スターダストが勝手に！？」

のび太も何が起こっているのか把握しきれていない

そして、2匹の龍が絡み合い周囲は眩い光に包まれた・・・

その光の中でのび太と雅は見た。紅き龍が巨大な悪魔の様なものに戦いを挑む姿と、炎をあげるススキ原のヴィジョンを・・・

のび太「なっ、何が起こってるんだ・・・うつ、右腕が熱い・・・」

のび太は右腕に目をやつた。すると、腕にはヴィジョンに現れた紅

き龍の尻尾によく似た痣が出来ていた。

雅「うううう ． ． ． 」

雅にものび太と同じように右腕に紅き龍の腕の痣が出来ていた。

ギャラリーは最初、デュエルディスクの演出だと思ったが一人が倒れているのを見て驚いたように近くに集まってきた

ギャラリーA「のび太、しつかりしろ！－のび太、のび太あ ． ． ． 」

のび太と雅は氣を失つた。

ギャラリーB「爺さん、救急車呼んでくれ！のび太と女の子がデュエル中に倒れたんだ！」

賽子「なんじやつて！それは大変じや」

2人は救急車で病院に運ばれて行つた ． ． ．

続く

今日の最強力ードは逆転の魔皇

名前通り、発動条件はシビアだが逆転への可能性を秘めたブツ壊れカードだぞ！

（今後はブツ壊れカードを出さないように努力します . . . ）

ターン3 邪龍VS屑鉄 後篇（後書き）

いやあ、自分の表現力の無さに泣くしかない次回は『デュエルしない予定。

ここで読んでくれた人に質問

出木杉君がもし使うならどちらの『デッキがいいと思います？

- A インフェルニティ
- B ブラックフェザー

今後の執筆の参考にしたいのでお願いします。

ターン4 紅き籠

都内 大学病院

のび太「んん……」は……

のび太はベッドの上で皿を覚ました。そして、ベッドの横にはドラえもんがいた

「ドラえもん」のび太君、やつと気が付いたみたいね。お医者さんが言つには軽い脳震とうを起こしただけらしいからすぐ帰つていいつてさ。」

のび太「そ、うかあ……」

のび太は帰りの支度を始めた

のび太「あつ、そ、ういえ、ば雅さんは?」

「ドラえもん」ああ、あのポニー・テールの女の子の事かい?彼女ならのび太君よりも早く意識が戻つてピンピンしてたよ。あと、彼女からの伝言で『後で屋上に来て』だつてさ……で、そんなことよりのび太君、右腕のそれどうしたの?」

ドラえもんはのび太の龍の痣を凝視する

のび太「こ、これ……夢じゃなかつたのか……」

のび太はドラえもんに雅とのデュエルで見たヴィジョンの事を話し

た。

ドラえもん「信じ難いけど……その痣が証拠みたいなもんだしなあ……まあ、すぐ消えると思うよ。もしかしたらタダの痣って可能性もあるし」

のび太「そうかあ……まあいや。ドラえもん、僕は屋上にいつてくるから先に帰つていいよ」

のび太は靴を履いてデッキをケースにしまうと、屋上の方へ向つて行つた。

ドラえもん「紅き龍……一応調べておくか。」

大学病院 屋上

屋上は白いシーツがたくさん干されている。中庭に入院患者や休憩中の看護師が集まる為か、のび太と雅の他には人がいない

雅「のび太君、やつと来たわね。これでも飲んで。私のおごりよ」

雅はのび太にカフェオレを投げる。のび太はなんとかキャッチした。

のび太「雅さん、さつきのヴィジョンは……」

のび太はカフェオレの封を切る

雅「あれは……私にも分からないわ。でも、近いうちにあれが現

実になりそうで怖い。実際、のび太君と私の腕にあの龍の痣が浮き上がってるし……」

右腕に現れた龍の痣を見つめる雅

のび太「なんだか、嫌な予感がします。スターダストとレッドデーモンズもあのヴィジョンを見せるためにわざと寸止めしたんだと思います」

二人の間にしばらくの沈黙が生まれる

「私が説明しましょう」

屋上の出入口から男がやつてくる。

のび太&雅「あなたは？」

男「私はコルテス。紅き龍について研究している者です。」

コルテスを名乗るその男は一人にこう話しかけた

コルテス「あなた方は、紅き龍に選ばれし『デュエリスト』『シグナー』です。シグナーとは何かは未だ研究途中ですが、シグナーは主にシグナーとのデュエルで覚醒すると言われています。

どういう経緯で最初のシグナーが生まれるかは分かりませんが、シグナーはあなた方を含めてあと2人現れるはずです。」

のび太「待つて、シグナーは何のために現れるの？」

コルテス「それは……自縛神と呼ばれる闇の神々に選ばれし『ダークシグナー』と戦うためです。ダークシグナーが勝てば世界は

滅んでしまいます」

雅「世界が . . . 滅ぶ . . . 」

雅とのび太は凍りつく

コルテス「だから、あなた方にお願いしたい。残りのシグナーを見つけ出し、世界を救つてほしい . . . 」

コルテスは頭を下げる

のび太「そんな、僕には無理ですよ！僕はデュエルは弱いだし、勉強もダメだし、運動も出来ないし、目も悪いし . . . 」

コルテス「紅き龍に選ばれたと言つ事はあなたに熱き闘志がある証です。自分を信じてください。」

のび太「でも . . . 」

のび太は更に何か言おうとするが

コルテス「あなたの大切な人や世界が滅んでもいいのですか！？」

コルテスはのび太を一喝した。

のび太「1日待つて下さい、じっくり考えます」

雅「私もそつをせて下さい。急に世界を救えなんて言われても . . . 」

「

コルテスはにっこり笑い

「ルテス、いきなり言つた私が悪かつた。しかし、あなた方が紅き龍に選ばれたのは事実です。明日、ススキ原〇×小学校の裏山で待つてます」

そつ言つて「ルテスは屋上を後にした

のび太「とりあえず、僕はこれで・・・」

のび太は残つたカフェオレを飲みきつて、その場を後にした

雅「紅き龍・・・お兄ちゃんの件と関係があるかもしね」

雅はしばらく空を見上げ、その場を後にした

のび太宅

のび太「ただいま」

のび太ママ「のびちゃん、心配したわよ。軽い脳震とうでよかつたわ・・・今日はご飯食べてお風呂入つてゆっくりしなさい。」

流石に息子が倒れた日に勉強しようとガミガミ言つ親はいない

のび太「あんまりお腹すいてない、ドラえもんに僕の分あげていいよ。」

のび太はそのまま階段を上がつて自分の部屋へ戻つた

のび太ママ「まだ具合でも悪いのかしら . . . 」

ドラえもん「のび太君おかえり。ん、どうかしたの?」

のび太「実はこんな事が . . . 」

のび太はドラえもんにシグナーの件を話した

ドラえもん「そうか . . . 実は僕もあの後気になつてタイムテレビで見たんだ。数カ月後のススキヶ原を」

のび太「どうなつてた?」

ドラえもん「それが . . . 言いにくいくらいだけど . . . 壊滅状態だつた . . . 」

のび太は驚愕した

のび太「かつ、壊滅! . . . どうして! . . . 」

ドラえもん「僕が見たときには、5体の龍とべドロみたいな怪物が戦つてたよ . . . 多分、それがのび太君が言つてはいる白縛神じやあ . . . 」

のび太は黙つて下を向いていた。自分がこのまま戦わなくては街は壊滅してしまう。それどころか世界は滅ぶかも知れない

のび太「. . . 僕決めた!!大切な人を誰も泣かせたくない!世界が滅ぶのなんて見たくない!」

「ドラえもん」のび太君・・・そつか、分かつた。僕もできる限りの事をしよう。」

のび太「ありがと、ドラえもん」

覚悟を決めたのび太の田にはもう迷いは消えていた

ドラえもん「とらあえず、残り2人のシグナーを探すしかないね。」

やつこ「ドラえもんは押入れに入った。

のび太「コルテスさんが『シグナーに覚醒するのはシグナーにより近い人』らしいから、とらあえず皆に話を聞くか」

ドラえもん「そうだね。とらあえず、これあげるよ。」飯食べないならこれくらい食べとかないと」

ドラえもんは押入れからドラ焼きを取り出してのび太をプレゼントした

のび太「あつ、ありがと」

ドラえもん「じゃあ、飯食べてくるね」

そうこうしてドラえもんは部屋を後にした

のび太「これ食べて今日は寝よう。」

そう言ってのび太はドラ焼きをほおばった後、シャワーを浴びて部屋に戻り就寝した。

雅宅

雅「デッキもこんな感じでOKかな・・・きっとのび太君も決意を固めてるはずだし、私もグズグズしてられないでしょ」

雅はそう言つと一息入れるために缶コーヒーを買おうと外に出た。その時である

ドスツ

雅「つ！！！」

黒いマントを着た男2人組に腹部を強く殴られ、雅は気絶した。

黒マントの男「よし、ダークシグナーにしてしまえ」

そういうと黒マントの男は雅のデッキに数枚の黒いカードを加え、逃走した。

雅は意識を取り戻したが、様子がおかしい

雅「・・・我が名は雅・・・冥府の使者・・・」

雅はそう言い残すと夜の闇へ消えていった

のび太とドラえもんは空き地にスネ夫、ジャイアン、静香を集めシグナーについての話をした

静香「のび太さん・・・実は・・・」

静香は珍しくロングTシャツを着用している

のび太「どうしたの静香ちゃん?」

静香「実は、私の腕にも・・・」

そういうと静香はTシャツの袖をめくつあげた。そして、腕には紅き龍の手の痣が現れていた。

ジャイアン「静香ちゃんもシグナーって奴だったのか・・・でも、静香ちゃんってデュエルすんのか?」

ジャイアンを含め、「」の中の誰も静香のデュエルを見たことはなかった。

スネ夫「静香ちゃんならそれなりに強いデッキ組んでそうだな。実際、デュエルアカデミアに短期留学中の出木杉と同じぐらいカード知識が豊富だし」

静香「私はそんなに強くないわよ。でも、ダークシグナーなんかにこの世界を滅ぼさせはしない。だからのび太さん、私も一緒に戦うわ!」

ジャイアン「俺だつて戦うぜ！なんせ『心の友』の言つ事だからなあ！！」

スネ夫「僕も戦う！でも、財力で集めた青眼の白龍の力は借りない。自分の力で組んだこの『デッキ』……ダークシグナーをぶつ潰す！……のび太、お前は僕の『デュエル観を変えてくれた最高の友達さ！』

のび太「みんな……ありがとう！」

のび太は泣きだした

ジャイアン「泣くなよ、当然のことだぜ」

そんな事を話していると、のび太と静香の腕の痣が紅く光り出した。

のび太＆静香「龍の痣が！」

すると、どこからか雅があらわれた

のび太「雅さんじゃないか、おーい雅さん」

しかし、雰囲気がおかしい。服装も黒マントを着用しているなど不自然である

雅「みいつけた……シグナーの御一行……」

のび太「どうしたんですか？雅さん……」

スネ夫「待てのび太、様子がおかしい！」

雅「賢いわねえ、キツネ君……ねえボク、私とデュエルしない?
『闇のゲーム』を……」

雅の腕にはシグナーの痣ではなく、紫色の痣が現れていた。

スネ夫「闇のゲームだつて! 古い古文書でしか見たことなかつたけど、そんなもんが実在するなんて!」

晴れていた空がどす黒く曇り始める

スネ夫「のび太、彼女はどうやら僕を『指名の様だ。それに今決闘盤があるのは僕だけ。ここは僕が行く!』

スネ夫はデイスクにデッキをセットした

ジャイアン「大丈夫なのか? あいつ……」

ジャイアンは心配そうにスネ夫を見つめる

静香「彼なら大丈夫よ、確かに闇のゲームは仕掛けた人間が何者かに操られているのなら負けても死にはしないわ。」

静香は闇のデュエルに対する防衛術に関して詳しい

のび太「なら、大丈夫だけど……」

スネ夫(ブルーアイズ、僕を見守つてくれ! !)

空き地に吹いていた風が完全にやんだ

雅&スネ夫「デュエル！」

つづく
・
・

ターン4 紅き龍（後書き）

なんとか年内に投稿できました。読者の皆さん、遅れてしません
でした！！ 第5話も近いうちに投稿しますんでお楽しみにーーー（
案外デュエルパートの方が書きやすかったりする）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4550o/>

ドラえもん のび太の5D's

2011年3月25日16時39分発行